

いただきます。

R7.4



SDGs と食生活の疑問

人や国の不平等をなくそう

10 人や国の不平等をなくそう



管理栄養士 やまだ

新シリーズ 二十四節気で季節をめぐる。

二十四節気とは

二十四節気とは、太陽が地球を一周する日数（一太陽年）を二十四等分し、それぞれの期間に季節の変化を表す名前をつけたもの。古来中国の帝たちが農作業の目安になるよう、太陽の動きを基準に一年の季節の移り変わりをわかりやすくするために作られました。一節気は15日単位ですので、基本は360日となりますが、実際は閏(うるう)などで調整して用います。

「夏至、冬至」の二至と「春分、秋分」の二分を合わせて二至二分といい、「立春、立夏、立秋、立冬」を四立、二至二分と四立で八節といいます。それぞれの語意を知ること、季節をからだで感じることで「この季節の旬の食材はなんだろう」「食べると気持ちもからだも調子がいい」そんな発見があるかもしれません。

新芽が息吹く、固かった蕾が膨らみ花が咲く、小鳥が楽しそうにさえずる。すべてのものが生き生きとし清らかになる。それが清明です。深呼吸をすると冬の空気との違いに気付かされます。今までの乾燥した空気とは違い、鼻から抜ける少し潤いのある空気。

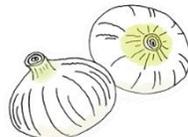
清明
せいめい

(4月5日頃)

旬の食材 「新玉ねぎ」

4月、5月に出来る新玉ねぎは水分が豊富でやわらかく、辛みより甘みが強いのが特徴です。新玉ねぎに含まれる多くの栄養素の中で注目すべきなのが硫化アリルとよばれる成分。これは神経の沈静化に必要なビタミンB1の吸収を促す作用があるといわれています。季節の変わり目を過ぎ、何かとストレスを感じることも多いのもこの時期。おいしいだけでなく、イライラや疲労回復に効果が期待できるうれしい野菜です。

出典：テーブルマーク 令和7年2月20日閲覧



この目標は、国内および国家間の所得の不平等だけでなく、性別、年齢、障害、人種、階級、民族、宗教、機会に基づく不平等の是正も求めています

A 会社では、障がい者の職業生活における能力発揮・自己実現の場を安定的に供給することを目指し、2018年4月以降の法定雇用2.2%の達成を最低限の水準と考え、障がい者雇用に取り組んでいます。

2009年12月には、グループ全体における障がい者安定雇用の更なる推進を目的に「ハウスあいファクトリー株式会社」を設立し、2010年4月に特例子会社の認定および関係会社適用認定を受けています。

他の特例子会社を設立し、本社などで使用する印刷物の制作や清掃作業など、本業とは離れた運営サポート的な業務を行うケースが多い中で、「ハウスあいファクトリー」は、障がいを持つ社員にもスパイス製品の生産というA社グループの本業を担ってもらうことにこだわったそうです。

障がい者用に特別に配慮した業務をあえて作って雇用することだけが企業の社会的責任ではなく、たとえ身体に障がいを持っていても、同じ業務を分かち合い、同じ社会人として自立した生活を支援するのが私たちの望みであり、それが社会貢献につながるのだと考えたそうです。

今後も障がい者と健常者が一体となって、より高い品質の製品を作る生産体制を模索されるとのこと。

